



追悼 故 利光道生 名誉教授

本学名誉教授利光道生先生は一九九二（平成四）年十一月二十三日、呼吸不全で逝去されました。享年八十歳。

先生は一九一二年大分県に生まれ、一九三四年広島師範学校を卒業後広島高師、広島文理科大学（教育学専攻）と進まれ、卒業後すぐ母校広島師範学校に奉職。戦後学制改革により、母校は広島大学に統合され、教育学部東雲分校として改組されましたが、一九七六年停年退官まで三十四年間にわたって母校で教鞭をとられました。先生は時々「僕は東雲のサラブレッドだよ」とおっしゃっておられたのを覚えています。

先生は戦後早い時期に比較教育制度学の開拓に着手され、さらに比較教育学の大家、英国のN・ハンスの研究と紹介に努められ、比較教育学の今日の発展の基礎を築かれた一人でした。なおハンスの主著「比較教育学」の訳業（明治図書一九五一年）は学会から高い評価を受けた労作です。

先生は日頃無欲恬淡で世俗から超越しておられました。しかし、学生とのコンパなどでは、上気して「箱根八里」を豪快なゼスチャー入りで歌われる一面もありました。

先生は英国紳士的な風格と日本的な情緒とがうまくミックスされたハンサムな風貌の持ち主でした。その人なつっこい微笑を見ることができなくなつたことに、寂しさを禁じえません。先生御退官の後、東雲分校も学部独立、大学院修士課程の設置など急速な発展を遂げてきました。DC構想も進んでいます。どうか、天国から母校の発展を見守ってください。

（学校教育学部学校教育講座 藤井敏彦）



追悼 故 石田喜兵衛 学生部次長

学生部石田喜兵衛次長は体調をこわされて十一月十六日から医学部附属病院に入院、十二月三日同病院で多臓器不全のため定年退職を目前にしながら亡くなりました。

次長は昭和二十八年十一月大阪学芸大学に奉職、昭和五十二年四月八代高専学生課長、以来和歌山大学厚生課長、徳島大学学生課長、神戸大学学生課長、秋田大学学生部次長を歴任、昭和六十二年十月統合移転途上にある本学の学生部次長に着任され、その豊富なご経験と卓越した能力の全てを傾注して厚生補導業務を中心に三代の学生部長を助けて本学のために尽力されました。

この間学生部の多岐に及ぶ事業の総括はもとより、東広島統合移転地での課外活動、福利厚生、学寮、留学生会館などの諸施設の設置や留学生主幹の整備のほか、大学設置基準の改正に伴う大綱化や総合科学部の移転に伴う諸問題の解決にも心血を注がれ、熱心に取り組んでこられました。

次長はきびしさと温情で接しられ、部内の明るいムードを大切になされ敬愛されたよき上司でもありました。若くして逝かれたことは誠に残念でなりません。

故石田次長の御功績とお人柄をしのび謹んで御冥福をお祈りします。

（学生部教務課 山本 幸雄）